

トキ米の供給と「よみがえれ！ トキ文弥人形上演会」



パルシステム生活協同組合連合会
産直・商品活動部 横山博志

パルシステムとは

- 1都9県にまたがる10の地域生協と共済連合会を加えた11会員
—東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木・福島・山梨・静岡—
- 出資金 96億5,000万円
- 会員組合員世帯数 141万世帯
—TVCM等のメディアを使い新規加入拡大—
- 会員事業高 約1,963億円（2013年度）
- 他の生協と較べて個人利用のシェアが高いのが特徴。会員生協の米供給量は、
 - ・ 25,957t （2013年度）
 - ・ 25,360t （2012年度）

米の栽培基準と基準別出荷量

| 栽培区分 | 除草剤 | 防虫・防除 | 肥料 |
|--------------------------------|----------------|-------|---------------------|
| コア・フード米 | 化学合成農薬不使用 | | 有機質100% |
| エコ・チャレンジ米（特別栽培＋優先排除農薬、問題農薬不使用） | 当該地域の慣行栽培の半分以下 | | 化学肥料は当該地域の慣行栽培の半分以下 |
| 慣行栽培米 | 当該地域の栽培基準による | | |

| | 2013年 | 2012年 | (2012年比) |
|----------------|---------|---------|----------|
| 1. 「コア・フード米」 | 596t | 608t | 98% |
| 2. 「エコ・チャレンジ米」 | 14,435t | 13,967t | 103% |
| 3. 産地指定の慣行米 | 10,926t | 10,785t | 101% |
| 合 計 | 25,957t | 25,360t | 102% |

生物多様性なしに農は成り立たない

（田んぼのなかに、生きもののつながり

（殺虫剤に頼るより生きもの同士の「バランス」が大事

（生きもの同士のバランスが保たれていれば、1種類の害虫だけが大量繁殖することはありません。



（もちろん、人間も、この生きものつながりの一員なのです。

1分でわかる「生物多様性」の歴史

- 1971年 第1回 ラムサール条約会議 →「湿地を守ろう！」
- 1992年 「地球サミット」(リオデジャネイロ)
 - 「生物多様性条約」調印 →生きものを守ろう！
 - 「気候変動枠組条約」調印 →持続可能な社会を作ろう！
- 2005年 京都議定書 →CO2を削減！
- 2006年 生物多様性条約COP6(オランダ、ハーグ)
 - 絶滅を2010年までに減少させよう！
- 2008年 ラムサール条約会議 →水田は生物多様性をにう湿地「水田決議」
- 2010年 生物多様性条約(名古屋)
 - 里山と人など、日本の生物多様性と調和した暮らし、文化、技術に注目



2008年 ラムサール会議

トキの放鳥運動を 産地とともに取り組む

pal・system

産地と組合員をつなぐ青果と米の情報誌 グリーンプラザ/パル 制作(株)ジーピーエス

産直通信

クリーンプラザ・パル

2009年11月2日

CONTENTS

- ▶2 | 昔ながらの富有的
—大紀コープファーム—
- ▶3 | 家族で楽しむあったか畑に
—茨城産直センターの「エコ・白米」—
- ▶4 | よみがえる、メダカやホタルたち！
—パルシステム(農のめぐみしずへ2009)

パルシステムの「産直原則」
パルシステムの産直は、
以下の4つの達成を目指しています。
①生産者・産地が明らかであること
②生産方法や出荷基準が明らかで生産の
履歴がわかること
③環境保全型・資源循環型農業を、
目指していること
④生産者と組合員相互の交流ができること

もう一度、
トキが暮らせる環境を
取り戻すために。

——「トキを育むお米(エコ・佐渡こしひかり)」

工業化や近代農業による環境汚染のなかで、
1981年を最後に日本の空から姿を消したトキ。
その後、中国の雄力を得ながら、
保護増殖活動が進み、今年9月29日には、
昨年にかけて第2回試験放鳥が行われました。
最後まで野生のトキが生息していた
佐渡島、片野尾、野瀬地区の棚田では、
「もう一度、トキが暮らせる環境を取り戻そう」と、
環境保全型の家作りを進めています。

日本鶴を飼育する産地、佐渡島・片野尾地区の棚田

トキを育むお米(エコ・佐渡こしひかり)

パルシステムでは2008年から、新潟県佐渡島からの要請を受けてトキ放鳥を成功させる運動を支援してきました。

現在では予約米「トキを育むお米 エコ・佐渡こしひかり」として供給しており、その収益の一部が、休耕田や田んぼの整備費などトキの生息しやすい環境づくりに還元されます。

取引実績(玄米t)



| 年産 | 契約数量 | 販売方法 |
|--------|---------|--------|
| 2013年産 | 108.60t | 予約 3kg |
| 2012年産 | 78.60t | 予約 3kg |
| 2011年産 | 43.68t | 紙面 3kg |
| 2010年産 | 46.59t | 紙面 5kg |
| 2009年産 | 47.67t | 紙面 5kg |
| 2008年産 | 23.10t | 紙面 5kg |

予約登録米のメリット(産地)

生産者が安心して栽培できる！

田植え前から売り先がわかるため、農薬を削減した米づくりに励むことができる。

組合員と約束を守るため、優先的に出荷する。



来年、再来年...と、安全で
安心な産直米が届けられ
る仕組みです。



環境保全型農業の推進





第5回 よみがえれ! トキ

佐渡「文弥人形」

上演会

農・くらし・文化
伝えたいものがある



海岸から標高400メートルの「天上田」にまで棚田が及ぶ佐渡島・野浦。
野生のトキが最後までくらししていたこの地で、
「もう一度、トキと人が共にくらす環境を取り戻そう」と、
パルシステム『トキを育むお米』の生産者が活動を続けています。
半農半漁のくらしを続けるかたわら、
300年以上続く「文弥人形」の稽古に汗を流す野浦の生産者たち。
トキも有機農業も、そして文化も、支えるのは人々の絆。
トキを復活させることは、時代をみなおすこと、
くらしをみなおすということ。
トキ復活の物語は、野浦の人々の営みを知り伝え、
伝統芸能にふれることから始まります。

ぶんの
「文弥人形」

国の重要無形民俗文化財に
指定された人形芝居。
佐渡の文弥人形は
ひとりが一体の人形を
ダイナミックに操るのが特徴。
人の持つ「情」をテーマに、
伝説の物語を深く印象的に
表現します。

日時 **11/16**日(土)

12:30(開場)

13:00(開演)-16:30(終了予定)

会場 東京おもちゃ美術館

東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内

鑑賞料 500円

特典:『トキを育むお米』200g

プレゼント



文弥人形上演会(東京公演)の開催

- ・毎年秋に文弥人形上演会を開催し、2014年度で第6回目をむかえる。
- ・第3回までは有志で開催していたが、第4回よりパルシステム主催と位置づけ、予算を設定したうえで活動を行う。



2013年度は新宿区の東京おもちゃ美術館で開催。193名の来場者を集め、「春駒」、「奥州安達が原三段目」が上演された。

文弥人形上演会開催の目的

伝統芸能文弥人形芝居上演運動を通して、
環境保全型農業推進の推進

- ・「コア・フード(有機栽培)」、「エコ・チャレンジ(パルシシステムの独自基準をクリア)」と慣行栽培農産物を取り扱う

お米の利用普及

- ・予約登録米制度の導入
- ・おすすめ活動



生物多様性保全(トキの住環境・棚田保全)

- ・「田んぼの交流」や「生きもの調査」、観察会など生物多様性への取り組みを実施
- ・調査には農家、消費者、民間団体、行政なども協力

生産者と組合員(消費者)を結びつけ、理解促進を図る

- ・組合員や職員を対象とした学習会を開催
- ・職員が商品説明を行うほか、生産者にも生産の苦労や商品のこだわりを語っていただく



生物多様性保全とパルシシステムの取り組み

棚田をはじめとした小規模・家族農業を守る意義

固有の農業システムや景観



- ・ 地元に適合した管理手法を導入
- ・ 多様な自然資源に基づき、何世代もの人々の知恵によって形づくられ、維持されてきた



- ・ 優れた景観
- ・ 生物多様性保全
- ・ 回復力に富む生態系



- ・ 多角的な商品やサービスの継続的な提供
- ・ 食と暮らしの安全、生活の質をもたらす

2014年度の取り組み

佐渡視察ツアーを開催

2014年7月19日(土)～21日(月)2泊3日

1日目:野生のトキ視察→トキセンター→棚田視察→懇親会

2日目:野浦フェスティバル参加(文弥人形上演及び生産者との交流会)→懇親会

3日目:パルのお米生産者の圃場視察→郷土資料館視察

文弥人形上演会

2015年2月下旬～3月上旬に開催予定

(例年は11月に開催していた)

食と農、環境は一体

食、農、環境保全が分断されて、
うまく機能しなくなっているのでは？

それをつなげるパルシシステム。

生物多様性をささえるパルシシステム
の価値を伝えたい！